

平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年1月29日

上場会社名 インヴァスト証券株式会社
 コード番号 8709 URL <http://www.invast.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 川路 猛
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 坂本 純一

TEL 03-3595-0423

四半期報告書提出予定日 平成26年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		純営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	3,304	—	3,303	—	317	—	389	—	3,702	—
25年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 2,603百万円 (—%) 25年3月期第3四半期 一百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	604.56	594.95
25年3月期第3四半期	—	—

(注) 当社は平成26年3月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成25年3月期第3四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	93,852	13,508	14.4
25年3月期	—	—	—

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 13,483百万円 25年3月期 一百万円

(注) 当社は平成26年3月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成25年3月期の数値は記載していません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	3,000.00	3,000.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は平成25年4月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行い、単元株式数を100株としておりますが、平成25年3月期の期末配当については、当該株式分割前の株式数を基準に実施しております。
 なお、平成26年3月期の期末日における配当予想額は、現時点において未定です。

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

当社の主力サービスである外国為替証拠金取引は、外国為替市場や株式市場等の市況、その他国内外の経済環境等に大きく左右される傾向にあり、業績予想が困難であるため、業績予想の開示は行っていません。
 その代替として、営業収益等の営業指標を月次概況として開示しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期3Q	6,411,400 株	25年3月期	6,411,400 株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

26年3月期3Q	374,300 株	25年3月期	145,100 株
----------	-----------	--------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期3Q	6,123,733 株	25年3月期3Q	6,411,400 株
----------	-------------	----------	-------------

当社は、平成25年4月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。前会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数(普通株式)を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 当社は平成26年3月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成25年3月期第3四半期及び平成25年3月期の数値については記載しておりません。
2. 平成26年3月期の期末日における配当予想額は現時点において未定であり、今後の業績等を勘案し見通しが立った時点で開示いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 追加情報	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	11
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社は、第1四半期連結会計期間より海外子会社「Invast Financial Services Pty Ltd.」を連結子会社とし、四半期連結財務諸表を作成しております。作成初年度にあたり、前年同四半期比及び前事業年度末比については記載しておりません。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、株価の上昇による消費マインドの改善を背景として、消費税引き上げ前の駆け込み需要が個人消費の増加を後押しし、堅調な内需が景気回復基調を支えました。

12月16日に発表となった日銀短観では、大企業業況判断D Iで製造業が9月比+4ポイントの+16ポイント、非製造業も同+6ポイントの+20ポイントと改善傾向を示しました。円安などのアベノミクス効果が企業業績にも徐々に波及し始めており、内需についても高額な耐久財などの駆け込み需要が個人消費を伸ばし景気を押し上げています。一方、外需においては、中国の景気減速懸念が払拭されておらず、対アジア向けの輸出には伸び悩みが見られています。ただ、米国においては当第3四半期当初、暫定予算の不成立により景気の先行きに対する不透明感が席卷したものの、10月16日の暫定予算案の可決以降、NYダウが高値更新を続けるなど力強さが目立ち始めており、また、ユーロ圏でも緩やかながら指標に景気回復感があらわれ始め、これらが円安効果とともに今後の日本の輸出の押し上げ要因として期待されています。

外国為替市場は、ドル円相場が年末に向けて騰勢を強めました。10月は、米国の暫定予算案が不成立となったことに伴い米国債務の上限引き上げに対する懸念が台頭したことからドルが売られました。

しかし、その後は暫定予算案の可決や世界的に株式市場が上昇傾向を強めていることを背景として、円資産からリスク資産に乗り換える動きが顕著となったこと、また、日本の経済構造の変化から貿易赤字が高止まりとなっていることなどを材料に、ドル買い、円売りが活発となり、12月30日には年初来高値となる105.42円まで上昇しました。株式市場は、円安や世界的な株高を背景に上昇基調を強めました。日経平均はドル円相場が11月に100円台を回復すると上昇速度を加速し、日銀の追加緩和策への期待や世界的な景気回復を足がかりとして12月23日には平成19年以来6年ぶりに16,000円台を回復しました。

このような経済状況のもとで、当社グループの当第3四半期連結累計期間の営業収益は33億4百万円となり、これから金融費用1百万円を差し引いた純営業収益は33億3百万円となりました。

また、当第3四半期連結会計期間において、当社が保有する投資有価証券の一部売却を行ったことにより、36億80百万円の投資有価証券売却益を特別利益として計上しております。

こうして、販売費・一般管理費は全体で29億85百万円、純営業収益から販売費・一般管理費を差し引いた営業利益は3億17百万円、経常利益は3億89百万円、四半期純利益は37億2百万円となりました。

なお、当社単体での営業利益は5億3百万円、経常利益は5億80百万円、四半期純利益は38億92百万円となりました。

セグメントの業績概況は次のとおりであります。各セグメントにおける純営業収益は、取引所清算手数料等の取引関係費と相殺表示しております。詳細は、「注記事項(セグメント情報等)」をご参照ください。

当社の報告セグメントは、「取引所F X取引」及び「店頭F X取引」の2区分としておりましたが、当第3四半期連結会計期間より、海外連結子会社 Invast Financial Services Pty Ltd.の事業開始にあわせて、「海外金融事業」を新設し、「取引所F X取引」、「店頭F X取引」及び「海外金融事業」の3区分に変更しております。

「取引所F X取引」においては、東京金融取引所における為替証拠金取引サービス「くりっく365」の提供を行っております。

「店頭F X取引」においては、店頭外国為替証拠金取引「F X24」及びF X自動売買サービス「シストレ24」の提供を行っております。

「海外金融事業」においては、オーストラリアの子会社Invast Financial Services Pty Ltd.が店頭F X取引及び店頭CFD取引を行っております。

その他、当社では、東京金融取引所における株価指数証拠金取引「くりっく株365」のサービスも取り扱っております。

セグメント名称		事業の内容	会社
報告 セグメント	取引所F X取引	「くりっく365」	インヴァスト証券㈱
	店頭F X取引	「F X24」、「シストレ24」	インヴァスト証券㈱
	海外金融事業	店頭F X、店頭CFD	Invast Financial Services Pty Ltd.
その他		「くりっく株365」、「CFD」※	インヴァスト証券㈱

※当社の「CFD」は平成25年9月13日をもってサービスを終了しております。

① 取引所F X取引

取引所F X取引(くりっく365)による純営業収益は8億76百万円となり、セグメント利益は2億63百万円となりました。なお、更なる事業基盤の拡大を目的とし、平成25年12月13日付で株式会社サイバーエージェントF Xの「くりっく365」事業を吸収分割の方法により当社が承継する吸収分割契約書を締結いたしました。効力発生日は平成26年3月2日を予定しております。

② 店頭F X取引

平成23年11月よりサービスを開始したF X自動売買サービス「シストレ24」の総口座数は、平成25年4月に4万口座、8月には5万口座を突破いたしました。

11月にはシストレ24運用支援ツール「Myシストレ24」のスマートフォン版をリリースしたほか、8,000を超えるストラテジーの中から、年間を通じてお客様のシストレ24運用に貢献したストラテジーを表彰する「シストレ24 ストラテジーアワード2013」を開催いたしました。

こうして、店頭F X取引(F X24・シストレ24)による純営業収益は21億40百万円となり、セグメント利益は2億29百万円となりました。

③ 海外金融事業

平成25年2月に設立した当社初の子会社であるオーストラリアの現地法人Invast Financial Services Pty Ltd.の決算日は12月31日となっているため、連結決算への数値の反映は発生から3ヶ月後となります。

当第3四半期連結累計期間においては同社の2月(設立)から9月までの実績を反映しているため、7月下旬からの営業開始準備を含む初期投資や、企業認知度の向上のための積極的なプロモーション活動による広告宣伝費等の必要経費として販売費・一般管理費に1億90百万円を計上しております。

こうして、海外金融事業(連結子会社 Invast Financial Services Pty Ltd.)による7月下旬(事業開始)から9月までの2ヶ月弱における純営業収益は4百万円となり、セグメント損失は1億85百万円となりました。なお、平成25年9月末時点の預り証拠金残高は48百万円となっております。

④ その他

その他の事業(くりっく株365・店頭CFD)による純営業収益は42百万円となり、セグメント利益は9百万円となりました。なお、店頭CFDは平成25年9月13日をもってサービスを終了しております。

主要な収益・費用等の状況は次のとおりであります。

① 受入手数料

当第3四半期連結累計期間の受入手数料の合計は11億12百万円となりました。

内訳は以下のとおりであります。

・委託手数料	50百万円
・取引所為替証拠金取引に係る受取手数料	9億79百万円
・投資顧問料	80百万円
・その他の受入手数料	2百万円

② トレーディング損益

当第3四半期連結累計期間におけるトレーディング損益は、20億94百万円の利益となりました。

これは店頭F X取引によるものであります。

③ 金融収支

当第3四半期連結累計期間における金融収益は、9百万円となりました。

一方、金融費用は1百万円となり、これを差し引いた金融収支は7百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間での金融収支の主な発生要因は店頭CFD取引及び預金利息によるものであります。

④ 販売費・一般管理費

当第3四半期連結累計期間における販売費・一般管理費は、29億85百万円となりました。

主な内訳は以下のとおりであります。

・取引関係費	11億28百万円
・人件費	6億11百万円
・不動産関係費	8億46百万円
・事務費	21百万円
・減価償却費	2億88百万円
・租税公課	51百万円
・その他	36百万円

⑤ 営業外収益

当第3四半期連結累計期間においては78百万円の営業外収益を計上しており、その内訳は以下のとおりであります。

・受取配当金	64百万円
・その他	14百万円

⑥ 営業外費用

当第3四半期連結累計期間においては7百万円の営業外費用を計上しており、その内訳は以下のとおりであります。

・自己株式取得費用	1百万円
・為替差損	2百万円
・株式公開費用	1百万円
・その他	1百万円

⑦ 特別利益

当第3四半期連結累計期間においては37億4百万円の特別利益を計上しており、その主な内訳は以下のとおりであります。

・投資有価証券売却益	36億80百万円
・金融商品取引責任準備金戻入	23百万円

⑧ 特別損失

当第3四半期連結累計期間においては44百万円の特別損失を計上しており、その内訳は以下のとおりであります。

・固定資産処分損	44百万円
----------	-------

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は938億52百万円となりました。このうち、流動資産は908億39百万円となりました。流動資産の主な内訳は、現金及び預金41億65百万円、預託金161億92百万円、短期差入保証金616億57百万円、外為取引未収入金74億64百万円であります。また、固定資産は30億13百万円となりました。

内訳は、有形固定資産1億71百万円、無形固定資産9億23百万円、投資その他の資産19億17百万円であります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は803億43百万円となりました。このうち、流動負債は796億21百万円となり、その主な内訳は受入保証金724億61百万円、外為取引未払金64億95百万円であります。

また、固定負債の残高は6億74百万円となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は135億8百万円となりました。

内訳としては株主資本125億68百万円、その他の包括利益累計額9億14百万円、新株予約権25百万円であります。この結果、自己資本比率は14.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社の主力サービスである外国為替証拠金取引は、外国為替市場や株式市場等の市況、その他国内外の経済環境等に大きく左右される傾向にあり業績予想が困難であるため、業績予想の開示は行っておりません。

その代替として、営業収益等の営業指標を月次概況として開示しております。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、第1四半期連結会計期間より、Invast Financial Services Pty Ltd.は、今後重要性が増すと考えられるため、連結の範囲に含めております。

また、Invast Financial Services Pty Ltd.の決算日は12月31日であります。

四半期連結財務諸表の作成にあたっては、同社の四半期決算日の財務諸表(平成25年9月30日)を使用し、平成25年10月1日から四半期連結決算日平成25年12月31日までの期間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

(2) 追加情報

(株式会社サイバーエージェントFXとの吸収分割契約の締結について)

当社は、平成25年12月13日開催の取締役会において、株式会社サイバーエージェントFX(以下「サイバーエージェントFX」といいます。)の株式会社東京金融取引所における取引所為替証拠金取引における取引参加者としての事業を、吸収分割の方法により当社が承継することに関し、吸収分割契約を締結することを決議し、同日付で契約を締結いたしました。

1. 吸収分割の目的

当社は、取引所為替証拠金取引及び店頭為替証拠金取引を中心に、オンラインにて金融商品取引事業を展開しており、これらの顧客基盤を強化することを目的としております。

2. 吸収分割の方法

サイバーエージェントFXを分割会社とし、当社を承継会社とする吸収分割

3. 吸収分割の概要

① 吸収分割の日程

- ・契約締結日 平成25年12月13日
- ・効力発生日 平成26年3月2日

② 分割に係る割当ての内容

本分割契約に従い、当社は、サイバーエージェントFXから本事業の権利義務を承継する対価として、金10万円の金銭を交付する予定です。なお、本分割による株式の割当は行われません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

当第3四半期連結会計期間
 (平成25年12月31日)

資産の部	
流動資産	
現金・預金	4,165
預託金	16,192
顧客分別金信託	3,005
顧客区分管理信託	13,156
その他の預託金	31
短期差入保証金	61,657
外為取引未収入金	7,464
その他	1,359
流動資産計	90,839
固定資産	
有形固定資産	171
無形固定資産	923
投資その他の資産	1,917
固定資産計	3,013
資産合計	93,852
負債の部	
流動負債	
トレーディング商品	0
受入保証金	72,461
外為取引未払金	6,495
未払法人税等	343
役員賞与引当金	25
賞与引当金	38
その他	257
流動負債計	79,621
固定負債	
繰延税金負債	515
その他	158
固定負債計	674
特別法上の準備金	
金融商品取引責任準備金	48
特別法上の準備金計	48
負債合計	80,343

(単位:百万円)

当第3四半期連結会計期間
(平成25年12月31日)

純資産の部	
株主資本	
資本金	5,965
資本剰余金	2,807
利益剰余金	4,244
自己株式	△448
株主資本合計	12,568
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	929
為替換算調整勘定	△14
その他の包括利益累計額合計	914
新株予約権	25
純資産合計	13,508
負債・純資産合計	93,852

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
営業収益	
受入手数料	1,112
委託手数料	50
取引所為替証拠金取引に係る受取手数料	979
投資顧問料	80
その他の受入手数料	2
トレーディング損益	2,094
金融収益	9
その他の営業収益	88
営業収益計	3,304
金融費用	1
純営業収益	3,303
販売費・一般管理費	
取引関係費	1,128
人件費	611
不動産関係費	846
事務費	21
減価償却費	288
租税公課	51
その他	36
販売費・一般管理費計	2,985
営業利益	317
営業外収益	
受取配当金	64
その他	14
営業外収益計	78
営業外費用	
自己株式取得費用	1
為替差損	2
株式公開費用	1
その他	1
営業外費用計	7
経常利益	389
特別利益	
投資有価証券売却益	3,680
金融商品取引責任準備金戻入	23
特別利益計	3,704
特別損失	
固定資産処分損	44
特別損失計	44
税金等調整前四半期純利益	4,049

(単位:百万円)

当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	
法人税、住民税及び事業税	347
法人税等調整額	△0
法人税等合計	347
少数株主損益調整前四半期純利益	3,702
四半期純利益	3,702

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

		当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益		3,702
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金		△1,083
為替換算調整勘定		△14
その他の包括利益合計		△1,098
四半期包括利益		2,603
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益		2,603

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成25年1月29日開催の取締役会決議及び平成25年5月10日開催の取締役会決議(取得枠の拡大決議)に基づき、自己株式231,200株の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が292百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が448百万円となっております。

(セグメント情報等)

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	取引所F X取引	店頭F X取引	海外金融事業	計				
純営業収益	876	2,140	4	3,021	42	3,064	239	3,303
セグメント利益 又は損失	263	229	△185	308	9	317	—	317

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、差金決済取引(証券CFD・商品CFD)事業、取引所株価指数証拠金取引(くりっく株365)事業を含んでおります。

2. 純営業収益の調整額239百万円は報告セグメント事業における取引関係費(取引所清算手数料等)であり、それぞれのセグメントの純営業収益は当該調整額と相殺しております。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書上の営業利益又は損失と一致しておりますので、調整額を計上していません。したがって、セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益又は損失を表しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、海外子会社 Invast Financial Services Pty Ltd. を連結子会社としておりますが、当第3四半期連結会計期間より事業を開始したことに伴い、報告セグメントの社内管理体制の見直しを行いました。

これにより、従来の「取引所F X取引」及び「店頭F X取引」の2区分から、「取引所F X取引」、「店頭F X取引」及び「海外金融事業」の3区分に変更しております。